

デュロック種系統豚しもふりレッドの利用技術

畜産試験場

1 取り上げた理由

デュロック種系統豚「しもふりレッド」は発育，背脂肪厚，ロース断面積及び肉質（筋肉内脂肪含量，肉の軟らかさ）について8年7世代かけて改良された雄型種豚であり，平成14年度から生産農家への配布が開始された。ミヤギノポークの最終交配種雄豚として利用することで，サクラ201により生産されたミヤギノポークに比べて発育，産肉能力に優れ，薄脂が改善できることが認められたので参考資料とする。

2 参考資料

- 1) ミヤギノポーク生産の最終交配雄として従来のサクラ201に代えて利用する。
- 2) しもふりレッドを活用することで，次のような肉豚出荷成績の向上が認められる（表1）。
 - a 出荷日齢が8.4日短縮され，回転率が向上する。
 - b 背脂肪厚が0.18cm厚くなり，従来問題となっていたミヤギノポークの薄脂格落ちが改善できる。
 - c 上物率が52.4%と格付けが大きく向上する。
- 3) しもふりレッドの特徴的な肉質能力が受け継がれ，豚肉の高付加価値化が期待される（表2）。
 - a 筋肉内脂肪含量が3.88%と通常豚の2～3%と比較し，遙かに多い。
 - b マーブリングスコアも4.06と見た目においても商品価値は高い。
- 4) 系統豚「ミヤギノ」と併せ，宮城県開発豚由来血液割合が75%となり本県の独自色が出る。

3 利活用の留意点

- 1) しもふりレッドを用いて三元交雑肉豚を生産する場合，背脂肪が厚めの母豚を用いないなど厚脂対策に留意すること。
- 2) しもふりレッドの肉質能力を活かしたデュロック種純粋肉豚生産も一部普及させる。

4 背景となった主要な試験研究

1) 研究課題名及び研究期間

雄型種豚の組み合わせ検定試験 平成8～14年度

2) 参考データ

表1. しもふりレッドを利用したミヤギノポーク出荷成績(フィールド成績)

最終交配雄	出荷日齢 (日)	枝肉重量 (kg)	背脂肪厚 (mm)	格付等級	農場数 (戸)	頭数 (頭)
しもふりレッド	185.1	75.5	19.0	1.64	5	1,088
サクラ201	193.5	73.4	17.2	1.72	4	487

1) しもふりレッドは第5,6世代を使用した5農場のH13出荷平均

2) サクラ201は4農場のH10出荷平均

3) 格付等級は上:1、中:2、並:3、等外:4として算出

表2. しもふりレッドを利用したミヤギノポークの能力検定成績(n=17)

	平均値	±	標準誤差
105kg到達日齢 (日)	159.9	±	7.88
胸断面積			
第5-6胸椎間 (c m ²)	20.3	±	2.55
最後胸椎部位 (c m ²)	39.4	±	3.93
背脂肪厚 (mm)	23.1	±	4.42
筋肉内脂肪含量 (%)	3.88	±	0.93
マブリングスコア	4.06	±	0.54
テグ-収 (kgw/ c m ²)	80.4	±	12.9
トリップ 24hr (%)	3.48	±	1.30
トリップ 48hr (%)	6.12	±	1.72
加熱損失率 (%)	19.9	±	3.14

1) 交配雄はしもふりレッドは第6世代を使用。

2) 畜産試験場内検定施設内で肥育。

3) 発表論文等

a 関連する普及に移す技術

a) 増体能力, 筋肉内脂肪と肉の軟らかさを重視したデュロック種系統豚(第77号普及技術)